

タイパ重視できていますか？

2011年平均17秒台、2022年平均6秒台。何の数字か、おわかりでしょうか？

ヒット曲のイントロ秒数です。最近は短くなっていることが明確です。中にはイントロが0秒のヒット曲も複数あります（「Lemon」米津玄師、「夜に駆ける」YOASOBIなど）。

また、オンライン講義を倍速試聴する大学生は半数を超えるそうです。さらに、配信ドラマを試聴する際、再生速度を上げる人も沢山います。

実際、皆さんはYouTube等を見るとき、再生速度を全く変えないでしょうか。ほとんどの人が速度を上げているのではないのでしょうか。

短時間動画のTikTokが2024年には広告収入でYouTubeを上回る予測もあります。

まさにタイパ（タイムパフォーマンス）時代です。

これは、若手社員の働き方にも出ています。特に、“入社後、速く自分を成長させたい”と思っている新入社員は少なくありません。

しかし、実際の現場はタイパが進んでいるのでしょうか。もし、進んでいるなら、生産性はもっと上がり、給与も上がっているはずですが。

特に、コミュニケーションのタイパが悪い場合が多いのではないのでしょうか。

タイパの悪いコミュニケーション例
長くて、何を言いたいかわかりにくい話が多いマネジャー
マネジャーのわからない話をわかったふりするメンバー
同じ話が多い、年配社員
緊急性が高い用件でも、メールを使う若手社員
時間の割に、決まったことが少ないミーティング
説明不足のため、不要なやりとりが発生
意味がわかりにくいので、確認せざるを得ないメール
マイナス報告が遅く、大事になってしまう
結論から言わない報告
二通りの意味になってしまう表現（例：契約書を○/○にお送りさせていただきます）

組織では上にいけばいくほど、ノーを言われにくくなります。そのため、マネジャーは自分のコミュニケーション力に問題があっても、それを痛感していないことが少なくありません。

しかし、タイパを重視する若手社員からすると、そういう上司や職場は相当なストレスを感じてしまいます。それが、離職の一因にも間違いなくあります。

弊社では、タイパの良いコミュニケーション力を強化する多くのプログラムを実施しております（例：指導対話ロープレ、上手な報告仕方・受け方、会議運営力向上）。もちろん、タイパを重視したりリモート研修も多く実施しております。

是非、ご興味ある方は、ご連絡を下さい。

> お問い合わせはこちら

